府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県		みこしにまかれた胴巻きが、昔から安産のお守りとされており、これを取り合うところから「けんかまつり」の名がおこったとも言われている。
	宝の海神社豊漁祈願祭（神戸市） 神戸市漁業協同組合	神戸市西部漁業協同組合（当時）の山田岸松組合長が海洋環境の悪化や海上交通の輻輳化等で海上事故の多発を憂い、漁業者が安心して生業できる漁業漁村の創造を願って開催された。 (10 月 10 日開催)
	浦祈祷祈願祭・浜芝居(恵比須舞) 石屋（いわや）神社 兵庫県淡路市岩屋字明神７９９	石屋神社は、平安時代に書かれた、延喜式に登場する淡路で最も古い神社である。祭神は国常立尊（くにとこたちのみこと）・イザナギ尊・イザナミ尊の三柱。 ３月第２土曜に「浦祈祷祈願祭・浜芝居」が行われ、一年の豊作・豊漁を祈願する。恵比須舞(えびすまい)は、えびす様が鯛を釣上げる場面は必見である。また、５・９月第２土日曜にはだんじりもくりだす祭りが行われ、島の人々の信仰も篤い神社である。

播　磨　灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県	坂越（さこし）の船祭（赤穂市坂越） ※国指定重要無形民俗文化財 坂越の船渡御祭保存会 TEL：0791-48-8136 赤穂市坂越 1297　大避神社社務所内	大避（おおさけ）神社は祭神を秦河勝とし、坂越の産土神として信仰をあつめてきた。坂越の船祭は、この大避神社の秋の例大祭であり、神輿が神社から生島（いくしま）にある御旅所までを渡御するもので、この生島が浮かぶ坂越湾を舞台に繰り広げられる。毎年 10 月の第 2 日曜日の本宮では、神社から眼下の海岸まで、鼻高と獅子を先頭に各町の頭人が神輿に付き添いながら行列した後、海岸から御旅所のある生島まで二艘の櫂伝馬に曳航された獅子船五艘の頭人船、楽船、神輿船、歌船からなる船団を連ねて湾内を悠然と巡行する海上渡御となり、祭礼はクライマックスを迎える。江戸時代からほぼ変わらぬ姿で伝承されてきたこの船祭は、瀬戸内海を代

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県		表する大規模な船祭の典型例として、平成 24 年（2012 年）3 月 8 日に国の重要無形民俗文化財に指定された。 　また、かつて船祭に際して氏子各町が船檀尻をだしていたが、昭和 23 年（1948 年）を最後に途絶えていた。船檀尻の屋台部材が保管されていることが判明したこともあり、地元で保存会が結成され、平成 21 年（2009 年）に陸上で、平成 24 年は海上での復活がなされた。
	坂越盆踊り ※赤穂市指定無形民俗文化財 坂越盆踊り保存会 	寛永 16 年（1639）伊予国青島（当時は馬島）に移住した坂越浦の漁師与七郎ら 16 家族が、ふるさと坂越を偲んで始めたという盆踊りが青島に伝わっている（愛媛県指定文化財）。坂越でも、享和 3 年（1803）の『御役用諸事控』に、踊りは 2 ヵ所でなされ、取締りを受けているという記録がある。その後、明治、大正、昭和と継承されてきたが、大戦中は中断、戦後は青年団などで復活した。道路片側に音頭棚を設け、三味線、尺八、樽太鼓（4 斗酒樽）による囃子に合わせて唄い、踊り手は音頭棚の前で対向して 2 列になって踊る。地形的に広い場所のなかった坂越浦は、本町の海に面した通りで、仮装をして、2 列が互いに交差しながら踊る。大波小波が打ち寄せる様子を表した振り付けの踊りは、素朴で威勢のよいものである。 　この盆踊りは、8 月上旬の「たこ祭り」と西之町の地蔵盆（8 月 23 日）で踊られている。
	赤穂浜鋤き歌 ※赤穂市指定無形民俗文化財 赤穂浜鋤き唄保存会 	浜鋤きとは、塩田作業の一つで、休み明け（冬季休業明け）などに、海水の上昇を促すため、牛犂・鉄万鍬（歯の部分が金属製の万鍬）などの用具を用いて、固くなった地盤を掘り返す作業のことである。その際、浜男たちによる作業唄が「浜鋤唄」である。「浜鋤唄」が生まれた時期、その出現した場所、伝播の経路などは不明であるが、遅くとも江戸時代の中頃（18 世紀）から、赤穂塩田で働く人々（浜子・浜男）によって唄い続けられてきたものと考えられている。この唄は、各種イベントの開催時に披露されている。 　瀬戸内海は全国でも屈指の塩田地帯であり、浜鋤き歌はこうした場での作業で歌われたものである。
	伊弉諾神宮(いざなぎじんぐう)春季例祭 伊弉諾神宮 　兵庫県淡路市多賀 740 　TEL:0799-80-5001 URL:http://izanagi-jingu.jp/hp/	淡路国の一宮である伊弉諾神宮の例祭は、中世・近世の蓮華会に由来し、元禄 5 年（1692）に現在につながる形で復興された。例祭では、多くの檀尻が出ており、その中に一宮丸という船檀尻が出る。元禄 6 年（1693）年郡家浦の船乗り 12 名が遭難し伊弉諾神に願を立て、無事に帰還したことを喜び、浦をあげて伊弉諾神宮に船檀尻を奉納したことに始まる。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県		春季例祭は４月 21 日～22 日の２日間開催される。
	高砂神社船渡御（高砂市） 高砂神社 TEL：079-442-0160 E-mail:takasagojinja@gmail.com URL： http://takasagojinja.takara-bune.net/festival.html （高砂神社ホームページ） 	兵庫県高砂市の高砂神社秋祭り（毎年 10 月 10・11 日）で、３年に１度行われる神事。神輿を船に乗せ、海上渡御を行う。静粛な船上での神事と、氏子による勇壮な船積みと水揚げは圧巻である。 高砂神社は、江戸時代、姫路藩の需要港として繁栄した港町にある鎮守である。謡曲「高砂」発祥ゆかりの地で、「高砂相生の松」は、古くは『古今集』など和歌に詠まれ、風光明媚な白砂青松にかつてはあった。 船渡御は、高砂神社で、江戸時代から行われてきた秋の祭礼に行われる神事である。昭和戦中期をのぞいて続けられていたが、昭和 40 年以降 20 年間は中断されていた。昭和 60 年に再興されたが、平成５年以降は３年に１回行なうこととなっている。 10 月 10 日の午前 10 時 30 分頃、神輿は神社を出発し、屋台や子倶神輿と共に各町を練り、途中、栄町のお旅所でお旅所祭りをした後、再び町中を練り歩く。神輿の下を潜ると無病息災になるという。午後４時頃、堀川の船着場に集結し、締め込み姿の若衆 50 人が水中に入り、神輿を頭上に支えて、二隻の漁船を丸太で組んだ双胴船に積み込む。周囲には御座船を支える大勢の裸の若者がいる。「ヨーイヤサー、ソレッ、サッシマショー」の掛け声と共に、船渡御がゆっくりと始まる。御座船は曳舟に曳かれ、高張り提灯を掲げた供奉船 14 隻を従えて河口へと向かう。船団はさらに高砂浦を西へ回り、高砂港までの約３キロを海上渡御し、午後７時頃水揚げされる。そして、「ヨーサー」掛け声とともに、約 300 メートル離れた神社に還御する。神輿昇き・船積み・水揚げは８町会のうち３町がそれぞれ分担する。
	真浦の獅子舞 (姫路市家島町　真浦自治会) 真浦獅子舞保存会 TEL:079-325-0214 URL：http://www.city.himeji.lg.jp/ （姫路市文化財課ホームページ）	真浦の獅子舞は古くは文政３年(1820)頃に釜屋村から伝わったと推量される。毎年７月 24 日の宵宮、同 25 日の昼宮には家島天神社の氏神祭礼行事として獅子舞がとり行われるが、壇尻船と獅子舞の組み合わせには全国的にもあまり例がない。 獅子舞は二人一組になり「ささら」を交えて演技をする神楽の舞、花懸の舞、餌拾の舞、四方舞、洞入の舞、洞返の舞、八洲の舞や道中などがあり、獅

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県		子 14 人、獅子笛 7 人「ささら」4 人からなる 25 人の獅子連中により演じられる。二隻の壇尻船には舞台を組んで天狗二人を先頭にして乗り込み、船上で舞いながら家島神社へ獅子舞を奉納する。伊勢太神楽系統の舞を伝承している。
	十日えびす（1 月 9 日～11 日）（明石市） 岩屋神社 TEL 078(911)3247 稲爪神社 TEL 078(911)3143 URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/346（明石市観光協会）	稲爪神社の稲爪浜恵比須神社や、岩屋神社（昔は岩屋恵比寿と呼ばれていた）には、商売繁盛や家内安全、海上安全、漁業繁栄を願って、たくさんの人が訪れる。十日えびすはもともと、旧暦の 1 月 10 日に行われていた。「えべっさん」や小判が豪華に飾り付けられた熊手は、「年中の福徳をかきあつめる」縁起物と言われている。
	御厨（みくりや）神社 秋祭り（明石市） 御厨神社 TEL 078(942)3461 URL:http://mikuriyajinja.or.jp/freepage_12_1.html	4 世紀頃、神功皇后が韓国に遠征する時、この辺の浜に船を寄せ兵糧を集めたことから御厨(みくりや)との神名が付けられたと言われている。9 世紀後半に八幡宮を勧請。10 世紀後半には菅原道真が左遷され太宰府に向かう途中、この神社で休んだことから天満宮も勧請している。境内に、この伝説を伝える碑や、天満宮ゆかりの霊牛神社がある。海運関係者の信仰も厚く、鯛やタコを染め抜いたハッピ姿の若衆が担ぐ神輿は明石の秋祭り(10 月下旬の土･日曜日開催)を彩っている。
	左義長（明石市） 明石浦漁業協同組合	左義長は、平安時代、宮中で行われていた行事で、正月明け 1 月 15 日に御所の庭で、青竹を束ねたものに扇子、短冊、書などを添えて焼いた。次第に庶民に広がり、しめ飾り、書き初めなどを持ち寄って焼くようになり、明石でも昔から行われていた。明石浦の左義長は、15 年ほど前から漁業協同組合と地域が共同で行い、市内でも最大級のもので、早朝から高さ 12

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県	 URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/347（明石市観光協会）	メートルの骨組みに張子の鯛、タコなどを飾りにそれを 1000 本の青竹で囲み、しめ飾り、門松などと一緒に燃やす。海上安全と豊漁を祈る魚のまち、明石らしい行事となっている。
	御崎神社　的射（明石市） 御崎神社 藤江の的射行事保存会 TEL 078-923-4627 URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/348(明石市観光協会)	平安時代の頃は、格式ある神社で山王権現と呼ばれていたと言い伝えられているが現在は市無形民俗文化財に指定されている神事、的射が有名である。伝説では、昔、神々の乗った船が藤江に来た時、船夫が誤って大きなアカエイの鼻に錨をおろした為、アカエイが怒って船夫の船を沈め、死んだ船夫が悪霊となり、村人たちに危害を加えた。この神社の山王権現が弓矢で悪霊を退治したことにちなんでいる。大前や弓立衆とよばれる 5 人の氏子が 30 メートル先の的に 21 本の矢を射て、悪霊を払い、豊作、豊漁を祈る神事である。 1 月中旬頃に開催される。
	岩屋神社おしゃたか舟（明石市） ※明石市指定無形民俗文化財 岩屋神社 TEL 078-911-3247 URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/355	2 世紀中頃、明石に住む 1 人の子供に淡路の神から「明石に宮を造って祀るなら明石は栄えるだろう」とのお告げがあり、明石の村人 6 人が小舟に乗って神を迎えに行ったところ神舟に出会った。翌日神舟と共に流れ着いた浜辺に建てたのが岩屋神社と言われている。この伝説にちなんで毎年夏祭りに'おしゃたか舟'の海上神事が行われている。白のしめこみ、赤鉢巻姿の氏子 15 人が海に入り、サカキを立てた舟を押し進めながら「おしゃたか」と唱えます。おしゃたかとは、神様はおこしになったとの意味で、市無形民俗文化財に指定されている。7 月第 3 日曜日に開催される。
	灘のけんか祭り　潮かきの儀（姫路市） ※兵庫県指定重要無形民俗文化財 松原八幡神社 URL:http://www.nadamatsuri.jp/festival/index.html	姫路市白浜町の松原八幡神社で行われる秋季例祭の名称である。「灘まつり」は、また「灘のけんか祭り」とか、「妻鹿のけんか祭り」とも呼ばれ、古めかしい神輿をぶつけ合う特殊な神事によって、戦前から播磨を代表する祭りとして知られていた。戦後は、この神輿練りのほか、絢爛たる屋台を盛大に練り競う勇壮豪華な屋台練りが人気を呼び、国内はもとより海外にまでその名を知られるようになった。神輿をぶつけ合うの

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県		は、神功皇后が三韓出兵の際、近くの港で停泊中の軍船が、波に揺られてぶつかり合う様を表現したとも、軍船の船底の牡蠣を、軍船をこすり合わせてそぎ落とした様とも言われている。 「灘まつり」の祭礼スケジュールは 10 月 14 日宵宮（夜宮）と 10 月 15 日本宮（昼宮）に分かれ、宵宮で幕を開け、翌日の本宮である御旅神社への神事渡行を氏子たちが精力を傾けて執行し、日暮れ時に神輿は松原八幡神社へ還御、屋台はそれぞれの村に帰着して祭行事の幕を閉じる。 灘のけんか祭りに先立ち、心身を清める儀式がある。「練り番」の村は、15 日早朝から「潮かきの儀」を行う。一の丸、二の丸、三の丸と描かれた三本の神輿幟（のぼり）を掲げて、練り番の氏子たちが海に飛び込んで互いに海水をかけあい、禊（みそぎ）を行う。七ヶ村それぞれ「潮かき場」は異なっている。「潮かきの儀」は古式ゆかしく風情がある。
	相生ペーロン祭（相生市） 相生市役所地域振興課 〒678-8585 兵庫県相生市旭１丁目１番３号 Tel：0791-23-7133 Fax：0791-23-7137 URL: https://www.city.aioi.lg.jp/site/peron/peronrekishi.html	ペーロンが、中国から日本へ伝来したのは長崎に 1655 年といわれている。長崎港を訪れた中国船が、強風のため出航できなくなったので、海神を慰めて風波を鎮めるためにこの「ペーロン」競漕を港内で行った。長崎の人達が競漕を行うようになり、長崎の年中行事の一つとなって今日に至っている。 大正 11 年（1922 年）に長崎県出身の播磨造船所従業員によって相生に伝えられ、終戦までは毎年 5 月 27 日の海軍記念日に同社構内天白神社の例祭として、ボートレースと共に行われたが、この異国情緒あふれるペーロン競漕を絶やすことなく続けたいと、戦後、市・商工会議所・播磨造船所の共催による「相生港まつり」として開催し、また前夜祭では花火大会も行われるようになり、現在の祭りの基礎ができた。昭和 37 年には、市、商工会議所、石川島播磨重工業の三者により「相生ペーロン祭協賛会」を結成し、翌昭和 38 年からは「相生ペーロン祭」の海上行事として盛大に開催されている。ドン！デン！シャン！と、中国特有の銅らと太鼓の音に合わせて力漕する姿は、まさに龍が水面を駆けるように壮観そのもので、盛大に行われている。毎年 5 月最終日曜日（前日の土曜日は「前夜祭」の花火大会）に開催される。
岡山県	唐子踊（瀬戸内市牛窓町） ※岡山県指定重要無形民俗文化財 唐子踊保存会	瀬戸内市牛窓町紺浦の疫神社（祭神素戔嗚尊）の秋の大祭に神事として奉納される稚子舞であり、由来は三韓起源説、地元創作説など諸説あり定かではないが、歌詞、踊子の服装から朝鮮半島とかかわりがあるようである。毎年 10 月第四日曜日の秋祭りに神事として奉納される踊りである。 異国風の鮮やかな色彩の衣装をつけた二人の男児が青年の肩に乗って参詣し、本殿、摂社と巡拝した後、

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
岡山県	 URL：　http://www.okayama-kanko.jp/modules/kankouinfo/pub_kihon_detail.php?sel_id=860&sel_data_kbn=0	拝殿横の広場のゴザに降ろされる。踊り子は、片膝を立ててしゃがみこみ、「コンネン、ハジメテ　ニホンヘワタリ　ニホンノミカドハトオリマセン　マセン　ココロ　ヨカンココロ　ショガン　オンレイモウス」の口上を述べた後に立ち上がり、囃子方の「ヒューホイ」の掛け声とともに意味のわからない歌詞に合わせて踊り始める。衣装も歌、踊りの動作など他に類を見ない独特のものである。
	綾浦太刀踊　（瀬戸内市牛窓町） ※岡山県指定重要無形民俗文化財 綾浦太刀踊保存会 	毎年 10 月第 4 日曜日に綾浦の御霊神社（瀬戸内市牛窓町綾浦）の秋祭に拝殿で奉納され、また正八幡宮（瀬戸内市邑久町尻海）、粟利郷神社（瀬戸内市牛窓町長浜）の秋祭りでも行われている。 綾浦では、12～13 歳の男子 2 人が黒紋付の襷掛け、前鉢巻きで男装して太刀を持ち、他の 2 人が腰元風に襷掛け後鉢巻きで女装し薙刀を持ち、もう 1 人の陣笠、黒紋付に裃を着けた男が太鼓を打ち、10 人近い青年の囃子につれて、エイオーの掛け声を掛けながら打ち合う動作を繰り返すもので、一見、歌舞伎の立ち回りの様である。この踊りの歌は、異国風で唐子踊りに似ているが意味不明のところが多い。 一方、粟利郷の太刀踊の踊り子は全て女子に限られている。由来は、神功皇后西征の帰りに歓迎にこたえて船の兵士が先端をたたいたとも、正八幡宮のご神体を奉幣した途中に船が難航し、ご神体を慰めるために船板をたたき囃子に合わせて踊ったともいわれている。この踊りは、江戸時代後期には既に行われていたことが記録に残っている。
香川県	庵治の船祭り　（高松市） ※香川県指定無形民俗文化財 庵治皇子神社船渡御保存会 	庵治の船祭りは皇子神社の夏祭りとして旧暦の 6 月 14 日・15 日の満月に近い金・土曜日に行われる。祭りには、獅子舞３組と段尻１組が出る。 段尻とは、鋲打ち太鼓を中心に据え、長いかき棒を２本通して担ぎ上げるようにしたもので、一般的に「太鼓台」と呼ばれているものと基本的な構造は同じである。また、子ども用の段尻２組も出る。 昼宮祭（２日目の夜）には、神社下の海岸（江の浦）に、漁船３艘を連ねて上部に舞台を設置した船が５隻並べられる。神輿を載せる神輿船１隻、獅子舞３組を載せる獅子船３隻、段尻を載せる段尻船である。神社境内から降りてきた神輿は神輿船に載せられ、段尻は江の浦で練った後、段尻船に積み込まれる。その後、３隻の獅子船の舞台上で、獅子舞３組が同時に舞う。獅子舞が終ると、５隻の船は船団を組んで対岸の御旅

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
香川県	URL： http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/11963.html	所へ向かう。御旅所でも江の浦同様に段尻が練り、獅子舞３組が船上の舞台で舞う。獅子舞の終了後、５隻の船は船団となって海上を渡り、神社へと戻る。
	オシコミ　(小豆島町) ※小豆島町指定無形民俗文化財 オシコミ保存会 URL： http://www.town.shodoshima.lg.jp/olive_station/aki-maturi-h23.html http://www.asahi.com/news/intro/OSK201210160151.html?id1=2&id2=cabcbabh	小豆島町池田の亀山八幡神社で毎年 10 月 16 日に行われる秋祭り。10 台を超える太鼓（台）が集まり、勇壮なかきくらべが行われる。お旅所には国重要有形民俗文化財の桟敷があり見物客は桟敷から太鼓（台）の芸を見る。 奉納される太鼓台のうち、神浦地区は毎年櫓こぎ船に太鼓（台）を乗せて海から神社に宮入りする。これをオシコミという。
	島四国、またはお大師さん 小豆島(土庄町・小豆島町)、粟島(三豊市)、伊吹島(観音寺市)、広島(丸亀市)、豊島(土庄町)、瀬居島(坂出市)など URL： http://www.shikoku-np.co.jp/feature/nokoshitai/henro/4/	小豆島(土庄町・小豆島町)では、新春から春の遍路シーズンに、また粟島(三豊市)や伊吹島(観音寺市)、広島(丸亀市) 、豊島(土庄町)などでは旧暦 3 月 21 日に、瀬居島（坂出市）では新暦 4 月 29 日に、本島(丸亀市)では旧暦 3 月 4 日に島四国が行われる。 島四国(島によっては、お大師さんともいう)は、四国霊場八十八ヶ所のいわゆる写し霊場、またはその類似したもので、小豆島や本島では島内の寺院や堂庵を巡り、粟島や伊吹島、瀬居島、広島、豊島などでは小さな石仏が島内を巡るように配され、島四国の当日には、島民によるお菓子や飲み物の接待が行われる。島には多くの人びとが訪れ、信仰とハイキングを兼ねた行事となっている。 かつては、赤飯や甘酒など手作りのものをお接待するところが多かったが、過疎高齢や衛生面から袋菓子などに変わってしまったところがほとんどである。また、島の過疎高齢化によって、島四国の準備である道つくり(道をおおう竹や草を刈ったり掃除する)にも手が足りない状況で、行事の継続が厳しくなりつつある島もある。直島(直島町)や手島(丸亀市)でも行われている。
	小豆島農村歌舞伎（小豆島） ※香川県指定無形民俗文化財 ※記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	香川県小豆島に伝承される民俗芸能で、役者、太夫、裏方すべてを地元住民が行う。伝統的に上方歌舞伎との関連が深く、地域的特色が顕著である。 最盛期には島内約 150 か所で上演されていたとされるが、現在は肥土山、中山の 2 地区で実施されてい

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
香川県	肥土山農村歌舞伎保存会 中山農村歌舞伎保存会 	る。 ・肥土山農村歌舞伎 開催日時：5 月 3 日 開催場所：香川県小豆郡土庄町肥土山 ・中山農村歌舞伎 開催日時：体育の日の前日 開催場所：香川県小豆郡小豆島町中山 江戸末期の上方役者が小豆島に移住し、振付師として指導している。

紀　伊　水　道

府県名	海文化（伝統行事名）	伝　統　行　事　の　内　容
兵庫県	阿万の風流大踊小踊（南あわじ市） ※国指定重要無形民俗文化財 亀岡八幡宮　TEL：0799-55-0888 兵庫県南あわじ市阿万上町 385 URL: https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/soshiki/shakai/huryuodori.html （兵庫県南あわじ市 HP） 	風流踊（ふりゅうおどり）または風流（ふりゅう）とは、中世芸能のひとつで、鉦・太鼓・笛など囃しものの器楽演奏や小歌に合わせて様々な衣装を着た人びとが群舞する踊りである。南あわじ市阿万（あま）の亀岡八幡神社では、9 月 15 日迄に近い日曜日に風流（ふりゅう）大踊小踊が行われる。風流踊の起源などはっきりとしていないが、「大踊」は室町から桃山時代、「小踊」は三味線音楽の影響を受けており江戸時代中頃から踊られていたと考えられている。風流踊りは、多額の経費を要するために「百石踊」ともいわれた。昭和 42 年（1967 年）に兵庫県指定重要無形民俗文化財に、同 47 年（1972 年）には国選択無形民俗文化財に指定され、平成 23 年（2011 年）には国指定重要無形民俗文化財に指定された。
和歌山県	クエ祭（日高町） ※和歌山県無形文化財 日高町産業建設課 TEL：　0738 – 63 – 3005 URL： http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071000/osakana/matsuri/matsuri	白鬚神社で江戸時代から続くクエを祭った豊漁を祈る伝統行事である。 クエ祭は日高町阿尾の白鬚神社で行われる江戸時代から続く豊漁祈願の祭事で、毎年 10 月に開催される。体長 1 メートルもある大きなクエの干し物を丸太に吊し、神殿へ奉納しようとする当屋衆（とうやしゅう）と、それを阻止しようとする若衆（わかしゅう）が、クエの御輿をめぐりもみ合う勇ましいケンカ祭りで、当日はクエ祭りに併せてクエフェアーも行われ、各種ＰＲイベントや高級魚 クエ鍋が賞味できる。